

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（6・下）

—— 金好珍さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (6) — Part II —
— An Interview with KIM Hojin —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku

解放後，運動に身を投じて（続）

《大学進学》

——ずっと朝連の分会委員長をされていたんです？

金：わしはあの，出発は東阿支部の副委員長。うん，^{フウイウォンジャン}文化部長。大学行くようになってみ
んな辞めたんですわ，大学行くんじゃいうて。

——どこの大学ですか？

金：近畿大学の農芸化学。

——当時，近大は農学部も東大阪にあったんですか？ 今，奈良に……。

平成20年10月30日 原稿受理
大阪産業大学 人間環境学部

金：東大阪にあったんです。それ、大阪でそこしかないんですわ、農学関係の大学、というのが。

——どうして大学に行こうと思われたのですか？

金：わしは学校行くのが仕事やから。主専攻[第一志望校？]受けたけど、すべったんですわ。だからその間、朝連のその仕事やらね。大学に入れたから、わしは大学行って、辞めるっていうて、辞めた。

——大学は何年に入られたんですか？

金：えー、1年遊んで、2年目は大学に入ったね⁵⁾。

——朝鮮戦争が始まったから、辞めたという感じですか？

金：そういうことだね。もう朝鮮戦争で、吹田事件^{*17}だ。だからもう、朝鮮戦争が始まったもんだから、정신도 없고[気が気でなくて]、うん。

——学生だったなら当時、朝学同っていう学生組織ありましたよね。朝鮮学生同盟^{*18}。

金：わしは、^{ハクセン}学生同盟は1回行ったきり行ってないですわ。大学1年間、もう、^{チョリョン}朝連辞めて、大学ばかりですわ。

——じゃあ、あの朝連が解散させられて、その後に大学に行かれた？

金：いやいや、大学行ってる時に、市場を開いたり〈一同：笑〉。

——重なっているのですね、ちょっと。それは忙しくて学校行けないですよ（笑）。

金：朝鮮戦争の時は、わしは大学生やった。朝鮮戦争が起きたら、もう。朝鮮戦争が起きてから、大学も辞めて、救援運動^{*19}の方に。もう朝鮮戦争の時には、大学も何も、世の中はもう真っ暗でしたね。自分の財産もないし、ね。その中でこの家を買ってきてね。もう家の仕事半分、救援会の仕事半分。まともにやらんからね、うまくいかないですよ。

——その朝鮮戦争が始まる前は、いつか国に帰るつもりでしたか。

金：国に帰るっていうような目算はもう全然ないもんね。

5) 紙数の関係で、入退学年を確認するためのやりとりは省略したが、金好珍さんは1948年に近畿大学に入学し、1950年には退学したものと推定される。

——あ、それはなかったんですか？

金：うん。親もみんな日本に来ちゃったし、うん。

《百済市場をつくる》

——少し前に市場を開いた話をなさいましたが、その市場の名称は百済市場*²⁰ですか？

金：戦時中は公設市場でした。戦時中は物売るところから革工場に用途を変えていたんです。わしが知ってる人がね、戦時中、革ベルトの、革の仕事をするためにその工場を、百済市場を全部、工場にしてたんです。それで閉まっているんです、それ[百済市場を]売れ、言うて。[持ち主のところへ]友だち二人連れて。若いほやほやのが来て「大きな市場を売れ」言うもんだから、[持ち主が]「お金もってきたら売ってあげます」言うて、「酒飲んでいきなさい、酒飲んでいきなさい」。

さあ、金があるかね。[代金は]80万ですよ、その時に。一人1万ずつゼニ全部……。モラトリアム⁶⁾言うてね。日本でもあった〈一同：笑〉。その時にね、お金1万円ずつ配るんですよ。そんな時に80万ですよ。「金持ってこい」言うのに、「家も売ってくれ」も言われへんし。金を作る方法は「もう[今住んでいる林寺の]家売ったらいける」言うて。売れ、言うて。

——百済市場の店を出してくれる人を、どうやって声かけ、誰が集めてきたんですか？

金：あのね、昔、その市場を経営、あの使い走りをしていた人が、周旋屋[不動産屋]をやってましたんや。その周旋屋に言うたら、電話がないもんだから、この人電車乗って岡山まで行ってね、「あんたやってた病院いらんか」言うて。[するとその人が]「欲しい」。「そしたら金出しなさい」って。

——林寺の家をね、お医者さんに売る？

金：うん。この人がもう不動産屋やから。家を売ったり、^ミ買うたりする。それでその市場をね。わしら知らんから、市場のことは。この人が市場を昔、その経営してたような、使い走りをしてた人やから。勝手なもん[勝手知ったるもの]ですわ、ええ。

6) 「モラトリアム」とは一般に、国家が金融機関の混乱を抑えるために、手形の決済や預貯金の支払いを猶予することだが、ここでは進行するインフレを抑制する目的で、1946年2月17日から実施された預金封鎖を指しているものと見られる。

——そこにはどんなお店がありました？

金：もう、ありとあらゆる、立派な市場ですよ。

——営業って何カ月くらいできたんです？

金：えっと、そうだな。もう落成式も盛大にやって、ええ、完成したんです。だからもう家賃をもらうところで、やられたんじゃない〈一同：感嘆〉。ほんまに、もうちょっとおつたらな。わしら自分の家、売った分だけはもらえるのにね。やっとその革工場を、やってた工場を市場に全部やり直して、立派にして。そりゃあ大したもんだったんですよ。

全部[改装]して、人も入って、毎月利息や、店の貸し金だけで55万入りますねん。だから[月給が]5万円する人を10人くらいは雇える勘定でね、それをやったんです。みんな肉屋やらみんな入って。昔の人らがね。

——すごいなあ。市場として、また。

金：それでマッカーサー命令で、あんた、朝鮮人連盟の財産として取られました〈一同：驚き〉。ええ。それでわし、人の2階借りて住んだんです。

——その、朝鮮人連盟の財産としてその市場が没収された？

金：そうです。ええ、結局、朝鮮人連盟の家も押さえられましたよ。学校は取らなかつたけどね、百済市場はいの一番に取られましたよ。朝、20人くらゐの警察官が来てね、保全命令。マッカーサー命令の保全命令。この家に待機したらあきません[いけません]。

——その市場と朝鮮人連盟の関係ってというのは？

金：結局わしが朝鮮人連盟の人だから。

——名義が朝鮮人連盟やったわけじゃない？

金：ない。百済市場ですよ、はい。所有は金好珍^{キムホジン}。その人は連盟の委員長だということ。

——ああ、だから連盟の委員長だから、連盟の財産やということ。その時、委員長か、支部委員長でしたか？

金：分会の委員長。月に55万円……。10人分の月給ですわ。

——そのお金を朝鮮人連盟で使ってたんですか？

金：ま、使うまでにはかずに、取られちゃった〈一同：笑〉。

——使おうと思っていたら。

金：そういう方法でね。もう、朝鮮人連盟の金を100円ずつ集めてもね、なかなか集まらないんですよ。だからもう委員長としてね、10人雇えるという目算で。

——最初から、そうしようと思って買わはったんですか？

金：うん。そりゃ大したもんでっせ。今でもあの、だいたい中にね、豆腐屋さん、わしを訪ねてきますよ。元気でやってるか、言うてね。

——市場に入る人は、朝鮮人も日本人も両方？

金：誰でも。その、要するに、取り締まる人が一人おりましたから。

——落成式の時の写真とかは残ってませんか？

金：ない、ない。

《国旗事件》

金：写真のことではね、（思い出したように）うちの分会の青年同盟の委員長がね、本部の副委員長を兼ねてましたんや。[その人が]国旗事件*²¹で捕まったんです。「わしは^{チェジュド}済州島帰らせられる。もう、自殺[する]」。泣いて「助けてくれ」言うんですわ。あの大阪府庁に捕まってね。それで、軍事裁判ですよ、軍政。裁判所へ行ったらね、訳がわからない。結局、「この人はその国旗事件には関係ない」って言うてね。「証人を立てろ」言われてね。あの、裁判所から分会の方へね、2往復、2回往復しながら、夜学の先生、夜学の生徒、4人をね、連れていって裁判したんです。だから「そんな国旗なんか見たことない、貼ってない」。小っちゃい子らが言うもんだから、裁判所もあんだ、どうしようもないやん。そしたら「現場検証する」言うて。また、今度は[生野分会に]来たりして。

——国旗隠して？（笑）

金：国旗は……。ところがね、警察の人がもう頭が変になっちゃったんだね、警察の方も。下に貼ってあった国旗を「2階に貼ってある」って言うもんだから、だから「そんな、全然そんなの貼ってない」言うてね。裁判所が来る、検察庁が来る、あんだ、新聞社が来る。

そしたら、その、「ふすまの上の方に貼った」言うて。[国の]旗の大きさがあるでしょ？それと合わない。それであくる日、裁判所行ったら、無罪釈放。こんな裁判したこと初めてです。昨日も、今、病院にその人入院していて、見舞いに行きました。もう行ったら、命の恩人のように、ええ。自分に見舞いにきたまんじゅう、自分が食べへんから「これ持って行って子どもらにやれ」言うてね〈一同：笑い〉。

朝鮮戦争のころ

《吹田事件》

金：あの実は今日、吹田事件の時にね、ええ、年少者として裁判を受けたのが、この近所におったんですが、ええ、離れて布施の方に住んで長いこと会わなかったんですが、訪ねてね。今日来てくれることになっていたんですが、急に韓国の方に用事ができて行っちゃって来られなくて、みなさんによろしくと。

——その方は？

金：年少者です。ええ、年少者はね、朝鮮の人が9名、日本の人が4名で、13名。大阪の少年裁判所に身柄を移して。ちょうど、わしが訪ねた日には裁判官の審判があつて。それで、わしは家庭裁判所にも出入りしたこともないし、裁判についても知識がないもんだからね、家庭裁判所行ったら、その裁判所の書記官、女の人がお茶をくれてね。優しく話をしてくれて。その人が言うのには、「その夜夜中^{よるよなか}にね、みんな、眠たいのに、こういうふうな国を思って参加している人たちは、褒めるべきだという人もおるし、[事件現場に]行ってむちゃをしたと怒っている人もおるるので、難しいことですわ。家庭裁判所でも論議があつたけども結論出ませんでした」いう話。何かその家庭裁判所でも珍しいことですから。「この日本の歴史の中で、年少者がそんな大量に捕まることもないでしょ。そういうことで家庭裁判所でも話があつたんだ」と言うてくれて。親切にありがたいと思つて。

——裁判所ではどうだったんですか？

金：それで家庭裁判所でね、裁判の、その現場におりまして、朝鮮の人もたくさんいるし、日本の人も家族がみな来ていました。家庭裁判所でも、ああいうことはあまりないんじゃないかなと、わしも思つて。

じっと見てたら裁判官がその難しいこと言うんでしょ。「みんながそのデモに参加するのはええことだけれども、火炎瓶を投げられて目くら^(ママ)になった警察官もおると。こんなのをどないに思うか」って言うんですね。そしたら、その、裁判を受けている13名も、もうシーンとしてね、おるし。そこへ参加した父兄たちもね。「これ、大変なことになってるなあ」という感じを受けました、ええ。その年少者がね、手を挙げて、裁判長、言うてね。

——何と言ったんですか？

金：「わしは密航で釜山^{フサン}から来た者^{もん}です。戦争中は日本に住んで、終戦後、帰って釜山^{フサン}に住んでるんです。裁判長は言うけれども、わしとこは米軍の爆撃によってね、家もみな焼かれて、もう家族がばらばらになって、わしは逃げて来ました」言うてね。「こんなに惨めになったらね、アメリカをほっとくわけにいかん。デモに参加したくらいが、何が悪いんですか」言うて。そしたら、そうだ、そうだって、家庭裁判所が騒然となりましたよ。親たちもみな心配するし、手の尽くしようがないんです。わしはその時に、判事、言うて、手を挙げてね。もう無我夢中でした。「おまえら、ちょっと静かにせえ」「朝鮮の人はね、年のいっている人には尊敬の念をもって、気にくわんでもよく話を聞くのが朝鮮人じゃ」「おまえら、何言うてるんじゃ」言うてね。

——お話したんですか？

金：いろんな話をしたと思いますよ。その、家庭裁判所で聞いた話をね。「国のためにね、参加して、デモに参加して、けがする人もおるだろし、覚悟のうえのことじゃないか」。そういう意味の話をしたけど、「年のいっとる人のいうことは、よく聞かないと困る」って。「判事さん、悪いけども、この子らわしが引き取って、よく指導します」っていうことで、やっと落ち着いたんです。

ほならもう、みなでね、しばらくしたらね、その場でだね、13名即日釈放ですよ。わー！もう、そこにおったその家族の人らも、もうほんまに、こんなになるとは夢にも思ってた。みな韓国へ強制送還されるってことに、覚悟してたもんだから。

——大活躍ですね。

金：あくる日、法律事務所へ行ったら加藤弁護士^{*22}、その人は当時、国会議員でした。有名な人ですわね。「ちょっと会いたい」言うてね。会ったら「昨日おまえ、すごく活躍したじゃないかい」と。「すばらしい、おまえよくやったな」言うて。ちょっと、わし喘息をして身体、悪うしてました。ずっと歩けないしね、だけれども毎日出ていっては、

家庭裁判所に。あっちこっち、また身元も分からないのもいっぱいおってね。言うて、行くところないって、みな来るんです。それで、その日に参加して面倒みる、言うものの、もう[年少者とは]全然会わないし。こんな長い間がもう過ぎちゃって。今、嫁さん貰^{もら}て、子どもも大勢できて、おっさんになってる、いう話ですわ。

《外国人登録証をめぐって》

金：まあ、吹田事件で印象に残るのは、その件ですわ。それで、わし、長いこと、家庭裁判所の仕事や、生野区役所の外国人登録^{*23}のことで、裁判を受けんなあきません[受けなければなりません]。家庭裁判所の方の特別弁護人も3、4年、毎日のように片っ端からもう裁判ですからね。生野の区役所の係長を呼んでね、とっちめたり。まあ、面白いこともあったけども、もうあまりその、成果の上がらない闘いで。まあ、日本でもそういう登録関係の裁判所の仕事をしたの、わしだけと違いますか？

——その成果が上がらない仕事というのは、どんなものですか？

金：もう決まり文句ですわ。その、登録をせえ、言うても、その駄々こねて[登録を]しないわけです。期日の通り、[外国人]登録を申告しなかったという手続き違反ですわ。それをみな区役所が……。罰金は3千円ですわ。出せ、言うても、みな出さないわけ。それで裁判をやる。まあ決まり文句のように日々10人もすればね。大勢おったけども、なにしろ、たくさんの人が違反したんですよ。

——ほとんどの人が3千円出さないといけない？

金：ええ。けどもう、ほとんど罰金は払わずですね、ええ。裁判所が、払え、言うてもね。

——いつごろの話ですか？

金：えー、吹田事件当時の。

——そのころの3千円って、大きいお金ですよ？

金：あの、3千円が大きいとか、大きくないとかいう話はね。わしの母親がね、岡山のほうに住んでいたんです。もう1軒構えてね、お父さんと住んで。大阪へ米を運んで来てくれたり、助かりましたよ。うちの母親にもね、隣のその交番所がね、[母親に]登録見せ、言うてね。[母親が]「登録なんかもってない」。[巡査が]「罰金3千円出せ」言うて。

わし岡山行きましたん。そら、全部その経験があるんだから。ちゃんと岡山の裁判所もね、どんなことかと。だけども、その手順に^お合うて[沿って]ちゃんとするもんだから、裁判をやってね。「ちゃんと家の前に交番所がおって、このおばさんここに住んでるいうこと、登録もちゃんとあること、知ってる巡査が『おばさん、登録見せて』ってやったんじゃないか」言うて。[金好珍さんが]その巡査呼べ、言うて。それで……駄々こねたんです。

岡山県のね、朝鮮人総連合会の偉い人ら2、3人がその話を聞いてやって来てね。「あんた、こんなに裁判をやってくれて帰ってしもたら、困るのはわたたちが困るんだ。ちょっと優しくしてくれ」言うて。だけどうちの母親は3千円出ませんでしたよ。「そんなん、金があるとかないとかの問題じゃない。出さへん」言うてね。

——その時に、先生は外国人登録証を持っていたのですか？

金：わしは持ってましたよ。

——お母さんは外国人登録証をもってなかったんですね？

金：あの、持っているのは持ってるんだけども。身に離れたらだめなんです。

——常時携帯。

金：うん。そういうややこしい。今でもそら、その通りやればもう、片っ端から捕まる。わしも何べんもね、自動車乗って走っていて、[警官が]登録見せ、言うて。バカを言うな、言うてね（一同：笑）。「おまえらにそんな、そのやすやすと見せるもんと^{ちや}違う[見せるものではない]」言うて。わしはあの、道の真ん中で駄々こねてね。バカか、言うてね。そやけど、みな[警官が]登録出せ、言うて、持ってなかったら、3千円罰金。

——^{キムホジン}金好珍さんが外国人登録証を最初に持たれたのは、いつなんですか？

金：わしはもう日本に住んでたもんだから、最初からみんな持つようになって、違反したことはありません。

——一斉登録の時ですね？

金：今もう、登録の提示を求められることは、全然ありません。無駄なもんです。

——そうしますと、その登録についての裁判闘争というものは、そういった不携帯の？

金：ええ、不携帯。

——あの、密航でもともと、その、登録証を持っていない人に対する救援とか、そういうことではない？

金：それもやりましたよ、ええ。わしの親戚の者が密航で来たんですわ、うちへ来たもんだから。その、そういう登録持っている人がおるんですわ、「いない登録[証]」⁷⁾をね。うん、もらってあげたんですわ、その人に。密航で韓国から来たもんだから、登録がないんです。

——なんでその人は、[外国人登録証が]いないんです？

金：その人は余分に持ってたんちゃうかな？ その、登録あったら、そのお米の[配給の]実績があったら。配給もらえるんですよ。だから、そういうものを探して、もらってあげたんですよ。で、「まあ、5千円ほどお礼すればええ」いう話を〈一同：笑、感嘆〉。ところが、この人はもう登録持っているもんだから、威張ってね。街で悪いことばっかりして。それで警察はそういう話を聞いて、捕まえて。わしもあの、警察に朝早^{はよ}う連れていかれましたよ、ええ、その時。

——その密航してきた親戚の方が警察に捕まったんですね。

金：うん。その人が言うわけや、「金好珍^{キムホジン}にもろた」〈一同：笑〉。

——その人はどうなったのですか。ずっと日本にいてたんですか？

金：いえ、日本にいてたけども、韓国へ帰って。今また行ってますよ。

——それはいつごろの話ですか？ その、来たのは？

金：えー、それは吹田事件、夏が済んだずっと後ですわ。

——その外国人登録証明証の面でね。例えばその組織の方からですね、総連だとか、総連の前になるのか、分からないんですけど、みんなで常時携帯しないようにしようだとか？

金：いや、そんなことはない。

7) 外国人登録証は当然、一人が一部持つべきものであったが、たとえば漁船などを使った朝鮮半島との自主的往来（官憲から見れば「密出入国」）は当時まだ珍しくなかったため、こうした手段で朝鮮半島に帰国した者の登録証が、市町村役場に返却されることなく、使い回されることはあり得た。

——登録とか、切り替えしないようにしようとか、そういうことなんかは……？

金：だから、その[外国人]登録の闘争もね。えー、いろいろ過程があつてね。もう朝鮮総連はずっと反対の立場だったからね、ええ……。民団のほうも、反対はするけれども、ちょっとニュアンスが違うしね。民団ともよく争いましたよ。朝鮮総連が生野区役所へみな出てね、ワイワイやってるところへ民団はこのこ来てね、登録手続きを、その、やるわけですよ。

——わざと？

金：ええ。それでわしの知ってる者が来てね、そんなことをするから、わし、ちょっといじめてやったんですよ。今、大阪の役員やってますわ。それがあの、最近になってね、食事をするから来てくれ、言うて。わし行きましたよ。それはもう、その総連結成当時、わしと同じ立場^{おんな}において、あれは青年同盟の委員長になり、わしは支部の文化部長をやっていました、ええ。それがその登録のことで、生野区役所へ来たもんだから。殴ったりはしませんでしたが、みんなの前で、ちょっといじめてやったんですよ。

この間、それを言うんですよ。「えらい、いじめられてねえ。忘れてませんよ」言うて〈一同：笑〉。それで、ご馳走になって帰ったんだが、何を言うつもりか、また何か言うんじゃないかな。うん、まあ、また見てますけどもね。なにしろ、もう、ほとんどわしは昭和16年に日本に来て、韓国へもう帰ったこともなければ、ずっと日本でね、うん。で、総連に属して、他のことは考えてないのでね、うん。

《大村収容所と解放救援会》

——そもそもあの、解放救援会で活動されるようになったきっかけは、やっぱり吹田の事件がきっかけということになるんですか？

金：みんな朝鮮の人が固まってやることだから、それについて、どうのこうの言うことなしに、わしは言う通りしてきた。

——解放救援会のお仕事で、大村収容所^{(5)*14}とかに行かれたことありますか？

金：あるよ。わしはそういう活動だけは、人に負けないうらいしましたよ。大村収容所に行つてね、ある人に面会をしたんです。びっくりしてね。わしをスパイに思っているんです。

——面会したその人が？

金：その人が。こんな簡単に自分が会えるはずがない[ということです]。うん、何か手がなかったら、そんな、[知らない人が]ひょこっと現れるもんだから。大村収容所のその時の責任者、今も神戸にその人住んでいますわ。大阪所長までしましたよ、その先生。その責任者に会うのも難しいわけですよ。密航関係の者で行っても。それを簡単に会ってね、ひょこっと面会できるのは、何か自分に[危害を加えると思って]、もう、顔色が……。「あんたどうしたの？」って。

——それはなんで会いに行かれたのですか？

金：いや、それは頼まれてね。行きましたよ。その人、結局釜山^{フサン}まで送り返されて、途中自動車から逃げ出して、ピストルで撃たれて、死にましたよ〈一同：驚く〉。精神状態が変になったんじゃない？

——密航で捕まって、大村収容所に行かれたんですか、この人は？

金：そうそうそう。

——どこからの密航？ 濟州島^{チエジユド}からの？

金：どっからか、詳しいことも[分からない]。わし、[その人の]親戚でもないし。その人の親戚がちょっと知り合いで、その、向こうに行ったら、会えたら会ってくれていうだけで会うたの^おにね。全然意外な人[知らない人]が、ぱっと現れておるもんだから、何かわしをね、自分に不自由なことをするんじゃないかな思って。もう、普通じゃないですよ。

——先生の仕事は何なんですか？ 大村収容所に行って何をするのですか？

金：そら、あの解放救援会、そういうようなことだからね。大村収容所にも何回も行きましたよ。

——それは面会にだけ行くんですか？

金：面会も行ったし、出てきた人もおるし。だけどあんまり、大村収容所はわしらが رفتり、来たりするところじゃなかったんですけどもね、ええ。そして、大村収容所の係長かなんか責任者がね、大阪の[出入国管理局]所長になってきました。

——どうしてその方と知り合ったんですか？

金：それはね、[総連]大阪本部の社会部長が、わしが大村収容所に行く時に、「この人行ったら大事にしてあげ」って[責任者に]言うて、ちょっと連絡してくれましたわ、ええ。それで、その人も「この人ちょっと会えないか？」言うたら、「呼んで来い」って。

——大阪本部でも、総連の時代ですね？

金：そうです、そうそう。

——出てきた人を、先生と一緒に大阪まで連れてきてあげたとか？

金：そういうことです。それで、大阪の所長になってね。だから余計にもう、出入りが激しくなってる。

——大村収容所には、密航で来た人の他にどんな人が？

金：ほとんど密航関係ですよ。それはもう、密航の収容所ですわ。

——さっきのその、例えば、外国人登録の件で大村に送られた人も？

金：それも聞く……。そういう専門のところですね。今、大阪はどっか、茨木かどっか、変わったとかいう話。このごろは全然。

——大村収容所に通うのは、いつごろまでされていたのですか？

金：……。ちょっと見当つかないけれども。大村収容所も何べんも行きましたよ。その偉い人訪ねて行ったら、もう、自分の家、行ってるのと一緒にですわ。すぐ呼んでくる。それで、大阪の方へね、帰る時ね、同じ^{おんな}帰り道でした。

——ああ、汽車一緒に乗って？

金：ええ。で、大阪にもよく出入りして。

——ということは、その仲良くされていた大村収容所の責任者の人は、その時はわりと総連と友好的だった？

金：友好的だったと思います。

——あの、解放救援会と、日本人との関係はどうでした？

金：あまりないですね。解放救援会は、もっぱら大村収容所だとかね。

——吹田事件の時はもちろん日本人の……？

金：ああ、あの全然、趣が違います。

《同志・康性弼》

——一緒に仕事をなさった人は康性弼^{カンソソビル}*²⁴さんですか？

金：はい、もう死んじゃったんだけどね。あれはもう、わしの言うことはなんでも〈一同：笑〉。……死んでしまいました。

——康性弼^{カンソソビル}という人も吹田事件の被告だったんですか？

金：え？ 違う、違う。あれは、もうわしと二人ですわ。

——資料によると、康性弼^{カンソソビル}さんも吹田事件の被告とされていたようだったんですが？

金：いや、あれはもう救援会の二人です。

——二人で救援会を？

金：あいつはもう、よう動いてくれましたよ。

——その吹田事件の前から、そういう活動を？

金：ええ、もう、康性弼^{カンソソビル}と二人は生野頼母子^⑥*¹⁵事件のケンカの仲直りとかね〈一同：笑〉。
あるおばさんがうちへ逃げてきてね、うちで、このうち2階できる前ですわ。ええ。その頼母子のおばさんが、うち来て住んでたんだ。頼母子の親に追われて〈一同：笑〉。

——泊まっていたんですか？

金：ああ、殴りにかかるんですよ。「なんでこのおばさんをおかすのか」って。ええ、むちゃくちゃする。逃げるところがなければ、家も取られてね。独り^{もん}著のおばさんが、うち来て住んでて。……あんまり自分が惨めなもんだから、そっとうちの工場はね、鉄工所で青酸カリを使うんですわ。誰かがね「これ[青酸カリを]飲んだら死ぬで」って教えたもんだ。そのおばさんがそれをもって、堺行ってね。昔住んでた家が[堺に]あるんです。そこで自殺して死にました〈一同：驚き〉。息子も誰もいない人でした……。逃げるところがないから、うち来て住んでたんで。子守をしてくれたり、うちの家内も大事にしてましたのに、死んでしもた。そら、頼母子事件で有名でっせ。

——それはいつごろですか？

金：その、吹田事件の後ですわ。

——そうとう額が大きかったんですか？

金：いや、金は僅かですけどもね。そのおばさんの主人は漢方薬の先生ですわ。で、おばさんと二人で、生活が豊かだったんですね。そこへ、みんな遊びに行くというわけだ。頼母子をやったり、おばさんもやってて、韓国から親戚、主人の兄弟の子やね。甥っ子が来た。そしたらね、そのみんながね、この子を息子にせえって。おばさんに見れば、ありがたい話ですわね。主人もおらん。独り者^{もん}で、韓国から来た甥っ子をね、息子に。おばさん、生活が豊かでしょ。そこで[甥と一緒に]住んだ。今度は、嫁さんやね。[甥に]嫁さんもらった。「家が欲しい」。おばさんがその息子の言う通り、みんなの言う通りしたのが、借金です。

——^{カンソンピル}康性弼さんと先生お二人っていうのは、そういう困った人が頼って来る、最後にあてになる。民生係やね。総連ができてからは、どういのお仕事をなさったんですか？

金：そう、わしは[朝鮮人]連盟の時代から一本道でした。で、学校の関係をやってて、それでこの吹田事件の後の時から、生野の救援会を^{ソンピル}性弼と二人で……。

朝鮮総連結成、そして今日まで

《総連結成をめぐる争い》

——総連の時も主にその救援会のお仕事を？

金：ええ。総連の結成の時には、わし、司会をしました。それで殴り合いのケンカもね。大会のど真ん中にね、蹴っ飛ばしよる。それを鎮めるのに、大変ですよ。ちょっとやそつとじゃできませんで⁸⁾。

8) 1955年朝鮮民主主義人民共和国を支持する在日朝鮮人運動は、日本共産党の指導の下で祖国統一、在日権利擁護を闘う従来の路線と、朝鮮民主主義人民共和国の海外公民として共和国政府と金日成主席のまわりに結集するという新路線をめぐる激しい議論が交わされた。後者を主張する韓徳銖グループが最終的に勝利し、朝鮮総連への路線転換が図られてゆく。

——その、結成の時の司会というのは、大阪で、その生野の？

金：生野の。生野の支部の大会です。ケンカ騒ぎで大会おじゃんです。ハハハ。あくる日またやる。

——二つに割れていたわけですか、支部が？

金：ええ。

——総連に賛成、反対言うのは？

金：結局、反対のほうが。

——なんで反対していたんですか？ その反対の人たちの理由は？

金：理由はね、これっというような理由ないんですよ 〈一同：笑〉。感情ですな。

——どういう人がじゃあ、反対している人の特徴というか、例えば仕事とか出身とか？

金：中央の^{ハンドクス}韓徳銖[派]と反対の派が。この二人を北朝鮮が一早く呼んだんですわ。

——^{ハンドクス}韓徳銖と？

金：うん。^{ヒョサンホ}玄尚好*25いうんですよ。

——^{ヒョサンホ}玄尚好？ 大阪の阪神教育闘争の時、朝連の名前で署名した人ですよ？

金：そうそうそう。それにその^{ヒョサンホ}玄尚好は物書きも上手だし、政治的に手腕もある人です。だから二人が意見の違い、ね。だから^{ハンドクス}韓徳銖派、^{ヒョサンホ}玄尚好派だ。……（間）……親子でもね、この闘いだけはな。簡単に解けませんな。[ある]お父さんと息子が日本にいる時、この、みんなの前で「^イ ^{ジャシク} ^{チョ} ^{ジャシク} [この野郎、あの野郎]」言うて[ケンカするのを]、それをせんど[いつも]わしが食い止めて、親たちは北朝鮮に帰るが息子はうち、こ一人住んでました。それが、その死んでしても。

——お葬式はどうしたんですか？

金：この近くにあの、寺があったんですよ。^{イルボンサラム}あの日本人の寺ね、こころへんのお葬式するところですよ。そこへ運んだんです。

——その朝鮮の寺が、^{トングクサ}統国寺*26？ 天王寺にある？

金：^{トングクサ}統国寺。そこで、あの、お葬式したんや。

——その亡くなった人は、^{ヒョンスンホ}玄尚好派だったんですか？

金：まあね。そら、その人らの言うことが、わしは正しいと、いまだに思ってるんですよ。

——^{ヒョンスンホ}玄尚好はその後どうなったんですか？

金：死んじゃいましたよ。病気で死にましたよ。

——いつ亡くなったんですか？

金：ああ、深刻なもんですね。[総連結成後]間もなしに、ぼっくり死んでいった。

——基本的には、^{ハンドクス}韓徳銖さんと^{ヒョンスンホ}玄尚好さんの意見は、どこが大きな違いがあったんですか？
^{キムホジン}金好珍さんから見たら。

金：ハハハ。わしは何とも言えんけれども。……これ、はっきりしたら、いまだに、あの、なんかみんな持ってますで、正直なところ。……まあ、あまり、あまりわしは言いませんけれども、やっぱり根に持ってる。まあ……。あの、ものの言い方は、あの^{ヒョンスンホ}玄尚好の方がね、はるかに理屈に^お合うてますよ。だが、もう形勢がね、あのう、こうなるから、^{ヒョンスンホ}玄尚好自身が、そのう、出版をする、ピラを配るところまでやって、辞めて、自粛しているけれども。あの、^{ヒョンスンホ}玄尚好はかわいそうです。

——先生は総連の活動は、いつまでなさっておられたんですか？

金：今でもやっていますよ。このごろ、もう総連の活動があんまり、シーンとしたもんだから。もうなんで、こんななるのかな。

——あの、そうすると総連ができる前と後で、ちょうどこのころに、救援委員会の活動なんかもだいぶ難しくなったりしたこと、あったんじゃないですか？

金：救援……あんまり活動もせえへんしね。まあ大きな問題は、この^{アプタリ}앞다리・^{テック리}뒷다리*27のね、この聞きづらい話をね、どういうふうにして今後、出ないようにするかいうことは、残ってると思うよ、うん。人間の考え方って、そう簡単に変わるもんじゃないね。同じ歳の[意見の合う者]が、[会うと]にこっと笑うしね、そうでない者は見ても、知らん顔して。これが今、現実ですわ。

——話は変わりますが、金好珍さんは民戦*28と民青*29というところで活動されたことが
ありますか？

金：総連の組織が民戦ですわ。

——民愛青*30 っていうのはまた別ですか？

金：ああ、それは青年の。わしは青年同盟はしてない。わしはあの、わしより歳をいって
るものも、民青[民愛青]の仕事をしたけれども、わしは結婚もしない、ほやほやの時か
ら、あの総連。^{チョンニョン}わしは民青のことは全然してない。

《鉄工所の仕事と子どもたち》

——そしたら、総連の活動される以外に、おうちで仕事とかは、ほかにされてはったん
です？

金：家の仕事は、わしは農学校でしょ？ 仕事は鉄工所でしょ？

——鉄工所されていたんですか？

金：これがもう大きな障害ですわ、うん。それでもう高い機械も買^いうたりして、40くら
いの時から75まで4、50年やったん違^{ちが}いますか。

——表に、看板出てました。あの、駐車場の上に。

金：鉄工所はね、農学校とは関係おませんわ [ありません] 〈一同：笑〉。奈良の学校行っ
たらね、「鉄工所の社長来た」言うて、大騒ぎしました、皮肉って。

——あ、奈良の農学校の同窓会なんかに行ったりされました？

金：行きましたよ。

——なんで鉄工所を始めようと思われたんです？

金：鉄工所始めたのはね、もう、家は取られてもうて、丸裸になって、そしてたまたま、
この縁があって、この鉄工所を買うたんです。

——誰かやっていたのを？ 買ったんですか。

金：いえいえ。もう、戦時中、戸閉めたままの、ぼろぼろの家をね、ええ。その家賃も払

えんから、安さもそらね、あったりして。もう40年ほど、鉄工所をやって。鉄工所らしくやったんですよ。ところが息子も朝大^{チヨウダイ}*31をね、みな工業の方を出して、卒業したら当然、跡継いでやってくれるものと思って、頑張ってたけれどもね、これがね、違うんです。これは無理できないなあと思って、もう片つけよう、言うて。

——息子さんは大阪にいるんですか？

金：今、大阪でみな自分のちゃんとやっていますわ。[総連の]支部の委員長もやってるのもおるし、一人は姉のところで[働いて]やってるのもおるし。この間も公園で焼き肉やって、ええ……。あの……。大学卒業して帰ってきても、工場を覗こうともしないね〈一同：笑〉。

——鉄工所で何を作っていたんですか？

金：金型。これが難しいんです。1ミリを100で割って、一つ二つ違ったらダメです。

——職人芸ですもんね。

金：ええ。そらあの、よう鉄工所として40年もね、やったもんだなと思いました。

——どこかお得意さんか、何かがあったんですか？

金：この金型の得意先はないんです。この金型はこの工場ですら年に一つ作るか作らないか。金型って何ですかっていう人もおる時代やから。

——それは、始めはった時はご自分で作るんですか？ それとも職人さんとかから？

金：職人。あの、農学校のもんはね、鉄工所に行ったら真っ暗ですよ。

——全然違いますものね。

金：ああ、恥かいただけですわ。全然もう、いらい方[扱い方]が違うから。わしは、いらい[触り]もしなかった。

——職人さんはどういう方？ どこから？

金：まあ、職人もね、困るんですよ。

——しょっちゅう、変わるんですか？

金：うん。

——それは朝鮮の人も、日本の人も、両方？

金：日本の人もおりましたよ。

——娘さんが北にいるって、言ってたんですけど？ 娘さんが。

金：あ、はい、北朝鮮に一人、帰ってますよ。16歳の時、満16歳になるのを待って北朝鮮行くって言うて、[総連の]支部に行ったんだな。そしたら支部の性^{ソンピリ}弼。うん。これが電話かかってきて「娘が北朝鮮行く、言うてるけど、あんた知ってるの？」って。「行く、言うたら、行かせ」って言うて。

——それはご自分の意志で？

金：あの、満16歳やないと一人で行けませんねん。高校2年の時、娘は北朝鮮行く。その日の朝、うちの家内は赤ちゃんを産んで寝る〈一同：驚き〉。わし一人新潟行ってもね、なんだか変な気持ちでした。

——何人子どもさん、いはるんです？

金：10人〈一同：驚き〉。

——一番上の方が、娘さん？

金：そうです。

——その[結婚して]4カ月目の[お子さん]？（笑）

——一番下の方がおいくつ？

金：今、37、8なってたんちゃう？ 2番目の娘が北朝鮮行く時に、朝なったら、北朝鮮行く。オモニ[金好珍さんの妻]は赤ちゃん産む。

——^{オモニ}奥さん、何歳だったんですか？ その時。最後の子どもさんの時。

金：30いくつ違うかな？

——次女の方、会いに、北朝鮮には何回も行かはったんやね？

金：何回も行ったよ。

——順番で言うたら、長女さんで、次、男ばっかりですか？ 続きは。長男、次男？

金：うちはね、娘さんばかり6人産んだ。それから、7番目が息子。8番目が娘、9番目が息子、10番目が娘。で、もうおしまい〈一同：笑〉。

《初めての帰郷》

——^{チェジュド}済州島に、解放後、初めて行かれたのは、いつぐらいなんです？

——全然行ってないんです？

金：いやいや1回行った。

——済州市で、ほら、訪問団^{*32}で？

金：1回。訪問団で行って、自分の家も見に来んな[見て来なくては]。

——ああ、そっか。^{シンドリ}新桃里までは行ってないんですか？

金：いや、^{シンドリ}新桃里行った。一晩泊まって^{ソンミョ}省墓[墓参り]して、買い物に参加して。帰ってきた。

——それ、何年度ですか？

金：何年なるか、5、6年[前に]なるかな。

——2000年6・15[南北首脳会談]の直後ですよ？ その秋。

金：そうそうそう。

*本研究は科学研究費補助金（課題番号18530396）の助成を受けたものである。

【用語解説】

*17 吹田事件（再掲）

朝鮮戦争勃発から2周年を迎えた1952年6月25日早朝、軍需輸送粉砕を掲げるデモ隊が国鉄吹田操車場付近で警官隊と衝突した事件。24日夜、豊中市芝原の大阪大学グラウンドに大阪、兵庫地域から朝鮮人、日本人の学生労働者ら約1000名（うち朝鮮人約500名）が結集し、徒歩と電車を使う2グループに別れて翌朝吹田操車場に到着、デモ行進で操車業務を一時ストップさせた。解散したデモ隊が朝の通勤電車に乗ろうとしたところを警察隊が急襲したため混乱と衝突

がおき、負傷者が出たほか200人以上が検挙され、このうち111人が騒擾罪で起訴された。1審・2審判決とも騒擾罪は認められず、検察は上告を断念(1968年)、被告側の勝訴に終わった。

*18 在日本朝鮮学生同盟(朝学同)

1945年9月に結成された在日朝鮮人学生団体。当初は朝連から独立した中立的立場をとり、在日朝鮮人学生の生活支援、進学問題、教育対策、研究会開催などの活動を行っていた。1947年ころから朝連活動との提携が強化され政治色の強い路線に転換すると、内部で左右両派の対立も強まり、1950年5月右派学生は在日本韓国学生同盟(韓学同)を結成して、在日本大韓民国居留民団(民団)と同一歩調をとった。1955年在日本朝鮮留学生同盟(留学同)と改称し、朝鮮総連傘下団体となった。

*19 在日本朝鮮解放救援会

1948年6月に結成された朝連内の組織で、在日朝鮮人の人権擁護、愛国者救援、弾圧諸法令反対などを目的に活動した。外国人登録令、出入国管理令適用による韓国への強制送還阻止や吹田事件被告の公判支援活動、どぶろく密造を理由にした朝鮮人弾圧への抗議と拘束者や家族の救援活動にいたるまで、広範囲の活動を行った。民戦(後掲*28)結成時の構成団体でもある。

*20 百済市場

大阪市生野区林寺に開設されていた市場。国道25号線に近く、現存する百済本通商店街南側に位置する20~30メートル四方の敷地に、食料品や日用雑貨を商う個人商店が軒を並べていた。商店主は日本人が多かったという。大型店舗の進出計画などにより1990年ころ閉鎖された。なお百済の地名は、古代より朝鮮半島からの渡来人が現在の大阪市東南部に多く居住し、7世紀には百済郡が置かれたなどの歴史的経緯と関連がある。

*21 国旗掲揚事件

1948年9月9日の朝鮮民主主義人民共和国樹立に伴い、朝連系の各団体や学校では同年9月中旬から共和国の新国旗を掲揚するようになった。ところが10月初旬、アメリカ軍政部は新国旗の掲揚を一切禁止する命令を出し、掲揚した者への処罰を通告した。各地の朝連組織で開催された政権樹立慶祝大会では、武装警察隊が出動して掲揚された新国旗を没収し、関与した多数の活動家を逮捕して、占領政策違反を理由に軍事裁判に付し厳刑を下した。国旗掲揚をめぐる警察隊との衝突もおき、多数の負傷者を出した。

*22 加藤充

1909年栃木県生まれ。1933年京都帝国大学法学部卒業と同時に弁護士登録。小作争議に関する訴訟を多数手がけ、治安維持法違反で2度検挙される。戦後は1946年日本共産党に入党、49年大阪4区より衆議院議員に当選。阪神教育闘争、吹田事件の弁護団に加わったほか、「密入国」を理由に検挙された済州島出身者に対する軍事裁判での弁護もつとめた。

*23 外国人登録

1947年5月2日すなわち日本国憲法施行の前日に、吉田内閣は「勅令」として外国人登録令を公布施行した。連合国民には適用されなかったため、事実上在日朝鮮人を対象とする管理法

令である。在日外国人に居住市町村での外国人登録と外国人登録証の常時携帯、官憲の要求に応じた呈示などを義務付け、違反者には懲役、禁固、罰金、退去強制を含む刑事罰が規定されていた。また食糧配給の際、米穀通帳との照合に必要とされた。外国人登録証への写真添付は規定されていたが、悪名高い指紋押捺義務や数年ごとの登録更新義務が規定されたのは1952年制定の外国人登録法からである。朝連はじめ在日団体は在日朝鮮人運動への弾圧法規ととらえて激しく反発し、のちに登録・切替拒否や指紋押捺拒否などが闘われた。

カンソンビル
*24 康性弼

法務研修所『吹田・枚方事件について』（1954年）によれば、康性弼は吹田事件の際に「産業道路を行進中十数人の暴徒に対し、吹田駅まで頑張って歩け等と激励し、他人に率先して騷擾の勢を助けた」として52年7月16日に「率先助勢」という罪名で起訴されたが、1963年に無罪が確定した。『吹田事件と「裁判闘争」』（吹田事件文集刊行委員会、1999年）のなかには、康性弼が解放救援会責任者として、保釈されていない仲間のための保釈金集めに奔走した様子が描かれている。

ヒョサンホ
*25 玄尚好

1913年済州島大静面下桃里の生まれ。渡日して土工をしながら労働運動に参加し、1933年、36年に治安維持法違反で検挙され実刑判決を受けた。解放後、朝連中央委員、朝連大阪本部労働部長などを歴任。1948年6月4日、阪神教育闘争後の收拾策について赤間文三大阪府知事との覚書が交わされた際、大阪府朝鮮人教育問題共同闘争委員会責任者の肩書きでこれに署名している。1955年の朝鮮総連結成時には韓徳銖主導の路線転換に批判的立場をとり、1957年にも論文「在日朝鮮人運動の若干の問題について」を組織内に配布している。

トングクサ
*26 統国寺

大阪市天王寺区茶白山にある仏寺。聖徳太子の創建とも伝えられる。別念仏寺、古念仏百済寺、邦福寺などと名前を変え、1969年在日朝鮮仏教徒協会の傘下に入って「統国寺」を名乗る朝鮮寺として再復興された。

アプタリ ティッタリ
*27 앞다리・뒷다리

朝鮮語で前足、後ろ足を意味する。1955年の朝鮮総連結成にともなう路線転換議論の際、新路線に積極的な者は「先覚派」、消極的な者は「後覚派」などと称された。前足、後ろ足を意味する言葉も同様の意味を持つ言葉（新路線に積極的な앞다리, 消極的な뒷다리）と察せられる。

*28 在日朝鮮統一民主戦線（民戦）

朝連解散後の1951年1月に結成された大衆組織。朝鮮戦争期の朝鮮民主主義人民共和国防衛闘争や民族権利擁護闘争を指導した。これより先、1950年6月の朝鮮戦争勃発とともに朝鮮民主主義人民共和国を防衛する非公然組織の祖国防衛委員会（祖防委）が結成されており、民戦と表裏の関係を担った。

*29 在日本朝鮮民主青年同盟（民青）

1947年3月結成。朝連の指導のもとにその同盟体として結成され、朝連活動の実質的な実動

部隊の役割を果たしていた。1948年9月、朝連と同時に強制解散された。

***30 在日本朝鮮民主愛国青年同盟 (民愛青)**

1952年10月結成。朝鮮戦争開始後に組織された非公然の青年組織である祖国防衛在日朝鮮青年戦線が、公然組織として改組されたもの。朝鮮総連結成後の1955年8月、在日本朝鮮青年同盟の結成にともない解散した。

***31 朝鮮大学校 (朝大)**

朝鮮総連系の高等教育機関。1956年師範専門学校を改編し2年制の教育機関として出発したが、1958年からは4年制に昇格させ、東京都小平市に校舎を建設するとともに、本格的な大学教育を開始した。1968年革新首長の美濃部亮吉東京都知事は、朝鮮大学校を各種学校として認可した。

***32 母国訪問団**

1975年在日本大韓民国居留民団 (現・在日本大韓国民団) が朝鮮総連系同胞を対象にはじめた母国 (韓国) 訪問事業を指す。墓参団とも呼ばれる。朝鮮籍者にも臨時パスポートを発給して韓国への入国を可能にした。